

大学入学志願者数の傾向及び高等学校卒業後の進路の状況について

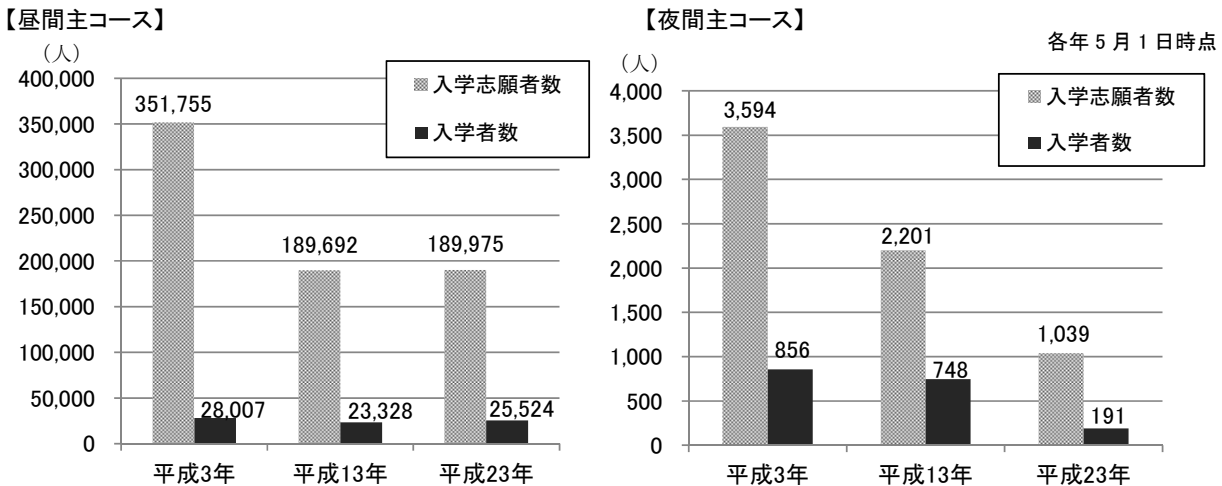
○大学の入学志願者数が減少

学校基本調査*の結果による、平成3年から10年ごとの昼夜間別の大学入学志願者数をみると、昼間主コースについては、平成3年の351,775人に比べ、平成13年は46.0%減少の189,692人となっており、その10年後の平成23年は、ほぼ横ばいの189,975人となっています。

一方、夜間主コースについては、平成3年の3,594人以後減少しており、平成23年においては、平成3年と比べると、2,555人(△71.1%)減少の1,039人となっています。(図-1参照)

※学校基本調査 — 学校教育行政上の基礎資料を得ることを目的とした、学校に関する基本的事項の調査

図-1 大学の昼夜間別入学志願者数(京都市 学校基本調査/結果報告)



○高等学校卒業後の進路の状況について

高等学校卒業後の進路の状況について、平成3年から10年ごとの傾向をみると、大学等進学者数は過去20年ほぼ横ばいですが、卒業生総数に占める割合をみると、平成3年の40.1%と比較し、平成23年は29.4ポイント増加の69.5%となっています。

一方、就職者は毎年減少しており、平成23年においては、平成3年と比べると、4,268人(△86.0%)減少の699人となっています。卒業生総数と比べると、平成3年は21.4%(卒業生のおよそ5人に1人)が就職していましたが、20年後の平成23年では16.3ポイント減少し、5.1%(卒業生のおよそ20人に1人)の就職となっています。

就職者の減少については、景気後退等による就職難も背景にあると考えられますが、近年では働きながら夜間に大学で学ぶ方が減り、大学等を卒業してから職に就く、という考えが主流になったように思われます。(図-2、表-1参照)

図-2 高等学校卒業後の状況(京都市 学校基本調査/結果報告)

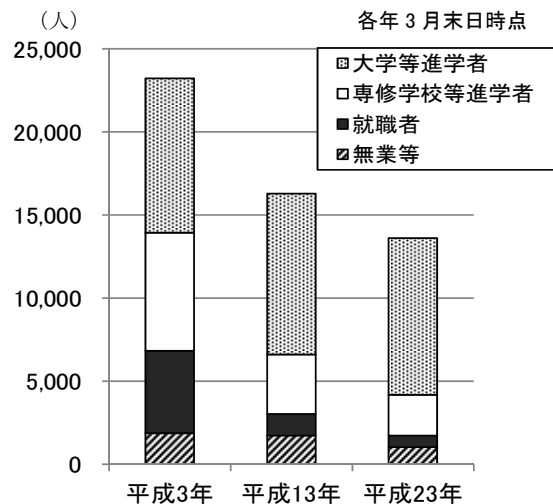


表-1 高等学校卒業後の状況(内訳)(京都市 学校基本調査/結果報告)

	卒業生総数	大学等進学者	専修学校等進学者	就職者	無業等
平成 3年	23,223	9,301	7,112	4,967	1,843
13年	16,272	9,680	3,585	1,307	1,700
23年	13,597	9,445	2,448	699	1,005